シャープ通信

2026 年 3 月　vol.52

「シャープの今」をお届けします。　　広報部

沖津社長がインド、中東を訪問

1 月 21 日（水）から 23 日（金）にかけて、社長 CEO の沖津さんがインドおよび中東の当社グループ会社や販売代理店に加え、現地市場の視察をされました。



まずインドでは、地域の販売会社であるシャープ・ビジネス・システムズ・（インディア）・プライベート・リミテッド（SBI）を訪問し、当社の状況や日本市場における AIoT 家電、新しいコーポレートスローガンなどについて説明しました。

23 日にはアラブ首長国連邦・ドバイの家電および事務機の販売会社であるシャープ・ミドルイースト・フリーゾーン・エスタブリッシュメント（SMEF）を訪問。当社の状況などを現地スタッフに説明し、市場動向などについて確認しました。

沖津さんが自ら海外拠点を訪問し、会社の方針などを直接説明したことで、現地メンバーの理解が深まり、シャープグループ全体の結束が一層強くなりました。

米国のテクノロジー見本市「CES 2026」に対話 AI キャラクター「ポケとも」を出展

11 月 6 日（火）から 9 日（金）まで、米国ネバダ州ラスベガスで開催される世界最大級のテクノロジー見本市「CES 2026」において、日本企業の先端技術を紹介する「JAPAN TECH」※1 ブース内に対話 AI キャラクター「ポケとも」を出展しました。

ポケともを世界に展開し、大事にされているところを見られるように今後も取り組んでまいります。



※1　最先端テクノロジーをもつ日本企業が、「CES 2026」の「Eureka Park」会場に出展するための共同プロジェクトです。

「2025 年度　省エネ大賞」において、プラズマクラスタードラム式洗濯乾燥機、「AQUOS」、「ePoster」の 3 製品が「省エネルギーセンター会長賞」を受賞



左から、受賞した Smart Appliances and Solutions 事業本部　副本部長　兼　清潔ランドリー事業部長の小森さん、
TV システム事業本部　国内事業部長の高橋さん、
スマートビジネスソリューション事業本部　デジタルイメージングソリューション事業部長の山本さん

一般財団法人省エネルギーセンターが主催する「2025 年度　省エネ大賞」製品・ビジネスモデル部門において、当社のプラズマクラスタードラム式洗濯乾燥機、テレビ「AQUOS」、カラー電子ペーパーディスプレイ「ePoster」の 3 製品が「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。



左から、プラズマクラスタードラム式洗濯乾燥機＜ES-12X1-W/-H＞、
「AQUOS XLED」＜HP1 ライン＞、「ePoster」＜EP-CA22＞

「省エネ大賞」は、わが国の産業、業務、運輸各部門における優れた省エネ取り組みや、先進的で高効率な省エネ型製品などを表彰する制度です。

『AQUOS』は 25 周年を迎えました

テレビ『AQUOS』は、2001 年 1 月 1 日の初号機発売から、本年で 25 周年を迎えました。



1953 年に国産第 1 号テレビを本格的に量産して以来、シャープはお客様にご満足いただけるテレビを常に目指し、開発を進めてきました。特に『AQUOS』は 2001 年の誕生以降、薄型テレビ市場を牽引し続け、おかげさまで今年 25 周年を迎えました。これからもシャープは『AQUOS』で、視聴体験を超えたさまざまな価値を提供していきます。

プラズマクラスター冷蔵庫 9 機種を発売

国内の冷蔵庫で初めて※2 生成 AI サービスに対応し、お手入れや食材をおいしく保存する方法など、冷蔵庫に関する質問や相談に回答するプラズマクラスター冷蔵庫『FiT63 シリーズ』6 機種と、オートクローズ機構を搭載し、半ドアを防止する新「どっちもドア」を採用したプラズマクラスター冷蔵庫 3 機種の計 9 機種を発売します。



左から、プラズマクラスター冷蔵庫＜SJ-MF43R-H/MW46R-W/MF46R-H/MF51R-W/MF55R-H/MF61R-H＞



左から、プラズマクラスター冷蔵庫＜SJ-XW46R-H/XW41R-W/PW37R-H/PW37R-W＞

■プラズマクラスター冷蔵庫『FiT63 シリーズ』の特長
1. 国内の冷蔵庫で初めて生成 AI に対応。冷蔵庫に関する質問や相談に AI が自然な言葉で回答
2. 「雪下シャキット野菜室」の高湿シールド構造強化により 14 日間の鮮度保持が可能に＜SJ-MF61R＞
3. 食材や用途に応じて使い分けられる「パラパラ冷凍」「味しみ冷凍」モードを追加

■プラズマクラスター冷蔵庫の特長
1. 新たにオートクローズ機構を搭載し、進化した「どっちもドア」
2. プラズマクラスターを搭載し、冷蔵室にきれいな冷気を循環させ、清潔性を保持
3. 野菜を乾燥から守り長持ちさせる「シャキット野菜室」を搭載

※2 国内における家庭用冷蔵庫と連携した生成 AI による応答サービスとして。2026 年 2 月 12 日サービス開始。

プラズマクラスターエアコン＜R シリーズ＞8 機種を発売

2027 年度を目標とする新省エネ基準を全機種で達成した、プラズマクラスターエアコン＜R シリーズ＞8 機種を発売します。



プラズマクラスターエアコン＜AY-U40RL2＞

■主な特長
1. 「防カビカラッとファン」とプラズマクラスター技術により、エアコン内部のカビを除菌※3
2. エアコンで初めて※4、生成 AI サービスに対応
3. 新省エネ基準を満たしながら、設置性に優れたコンパクト設計＜AY-U25RS/U22RS＞

※3 4 畳～8 畳相当の試験環境における 1 日～14 日後の効果であり、実使用環境の実証結果ではありません。
※4 国内家庭用エアコンと連携した生成 AI による応答サービスにおいて（当社調べ）。2026 年 2 月 26 日サービス開始。

★ WEB 社内報をご覧いただけます！！
URL： https://blog.jp.sharp/family/
または、こちらの QR コードからアクセスしてみてください！！ →

2025 年度 第 3 四半期決算を発表

2 月 10 日（火）、当社は堺本社多目的ホールにて、2025 年度第 3 四半期決算説明会を実施しました。



左から、専務執行役員CFOの小坂さん、代表取締役 社長執行役員 CEOの沖津さん

【2025年度第3四半期累計】
ブランド事業の売上高は、需要の低迷や競争環境の激化などがあり1兆644億円と減収となりましたが、営業利益は前年同期比で2桁の増益を達成できました。ディスプレイデバイスは 売上高3,154億円と減収となったものの、営業赤字が135億円で前年同期の160億円から縮小しました。その結果、全社トータルで減収となったものの、営業利益は409億円で、前年同期の203億円から倍増しました。
経常利益・最終利益についても、大きく改善しました。売上高、営業利益は想定通り進捗しております。
また、今回、通期の業績予想に、122億円の事業構造改革費用を追加で織り込みましたが、営業外損益が改善する見通しであることもあり、前回公表の最終利益を達成できる見込みとなっています。

【2025年度第3四半期】
[ブランド事業] ＜スマートライフ＞の売上高は、白物家電事業、テレビ事業、エネルギーソリューション事業とも減収となり、前年同期比8.9%減の1,571億円となりました。＜スマートワークプレイス＞の売上高は、PC 事業、ビジネスソリューション事業が増収、通信事業が減収となり、前年同期比5.3%減の2,075億円となりました。
[デバイス事業] ＜ディスプレイデバイス＞の売上高は、前年同期比15.4%減の1,035億円となりました。これは、スマートフォン向けを終息したこと、PC・タブレット向けが顧客需要の非常に強かった前年同期に及ばなかったこと、車載向けで取引先の一時的な減産による影響があったことなどによるものです。

【今後の取り組み】
一部構造改革の取り組みについて、中期経営計画の想定から方針を変更しました。昨年5月以降、鴻海への譲渡に向けて協議を進めてきた亀山第2工場は、今後、既存顧客の需要に応える先行生産、在庫の確保を行ったうえで、2026年8月を目途に生産を停止する予定です。なお、鴻海と連携したAIデータセンター市場への参入については、亀山事業所内の他工場の活用を基本に、当初計画通り検討を推進してまいります。また、堺ディスプレイプロダクトについても事業終息を決定しています。

当社は 3 月 16 日より、本社を大阪市中央区に移転します。2016 年に本社を堺に移転して以降、10 年間にわたり多大なるご支援をいただいた堺市ならびに関係各所の皆様には、心より御礼申し上げます。中期経営計画の公表以降、業績は順調に推移しており、財務基盤の改善も想定を上回るペースで進捗しております。
また、一昨年来取り組んできた「デバイス事業のアセットライト化」などの構造改革にも区切りがつきました。

今後は、いよいよ再成長へと本格的に歩みを進めていく段階に入ります。新たな地で心機一転、中期経営計画で掲げる 2027 年度目標「営業利益 800 億円」の達成に向け、取り組みを一層加速してまいります。